

令和7年度 京都市立日吉ヶ丘高等学校 学校経営方針

○学校教育目標

自律：自己理解を深め、自らの言動に責任を持ち、変化の激しい社会を柔軟かつ主体的に生き抜く力を培う。

協働：多様な価値観や人権を尊重し、他者との対話を通して社会に貢献していく力を養う。

創造：幅広い知識や教養、論理的思考力を基盤に、探究の意欲を持続し、新たな価値を創出する力を育む。

○育てたい生徒像

「世界をつなぐ越境者 ～Beyond the hill today, Beyond yourself tomorrow～」

自分の壁やまわりの様々な境を超えて挑戦し、いろいろな人々とつながり、自分の世界を広げ新しい価値を求める人

○令和7年度学校経営の基本方針および取組の重点

1. 生徒と教職員がともに成長する豊かな学校を実現する（ウェルビーイングが高まる学校文化の醸成）

- ・生徒、教職員、学校のウェルビーイングを高め、失敗を恐れずに挑戦できる心理的安全性のある学校文化を作る。
- ・生徒も教職員もともに「失敗することで成長する」、「取組を通して成長する」という価値観を学校全体で共有する。

2. 生徒の越境マインドを育成する

あらゆる教育活動を通して越境マインドを育成するという大前提のもと、特に次の2点をその中心として行うとともに、それぞれの取組の成果を検証（見える化）し、さらなる充実・発展につなげる仕組みを確立させる。

① キャリアゼミ（総合的な探究の時間）を中心とした探究の取組を充実させる

- ・「世界をつなぐ越境者」に必要な資質・能力、HIYOSeven（俯瞰力・受信力・適応力・思考力・発信力・挑戦力・個々で設定した力）の育成の中心的役割を果たし、その成果をすべての教育活動に波及させ、学校全体でHIYOSevenを育成する。
- ・自分らしい生き方と社会貢献の両方を目指し、他者と協働しながら課題解決を図る探究活動を展開することにより、自己効力感を高め、生涯にわたり、主体的に社会と関わっていく姿勢を育成する。
- ・外部機関との連携の幅を広げ、探究の発展的な取組（各種フィールドワークやコンテスト等の機会）の充実を図り、生徒に積極的な参加を促すとともに、生徒主体の取組が自発的に生まれてくるような継続的な働きかけを工夫する。

② GLEE PROGRAM（日吉版グローバル教育）を推進する

- ・日本や京都の伝統・文化に対する理解を深め、世界の平和と発展に寄与する人を育成することをめざし、本校のグローバル教育を体系化したGLEE PROGRAMを全ての生徒を対象に実施し、英語コミュニケーション力を伸長するとともに、豊かな国際感覚を涵養する。
- ・校内留学施設、HELLO Village（英語村）を英語教育の場にとどまらない学びのプラットフォームとし、世界の中の多様な価値観を理解する場とするとともに海外の人との交流や生徒主体の取り組みが日常的に行われる場とする。
- ・海外研修旅行や海外フィールドワーク等、海外での学びの機会を充実・発展させていく中で、海外大学進学や海外留学など、世界に飛び出していく意欲を持つ生徒を増やす機会を充実させる。

3. 中学生や地域に、日吉ヶ丘高校の特色・魅力を発信する

- ・より多くの中学生や保護者に本校の特色や魅力に気づいてもらい、本校を志望校の一つとして考えてもらえるよう、引き続き広報を重点的に強化する年度とし、学校説明会や中学校訪問などの取組や各種広報活動を効果的に実施する。
- ・東山区にある唯一の公立高校として、部活動も含め、地域貢献につながる活動を行うとともに地域との連携を強化する。
- ・生徒会を中心とした生徒が主体的に自分たちの学びやその成果をSNS等も含め積極的に広報できる仕組みを整える。

4. 「学びの見える化」を意識した進路指導を充実させる

- ・生徒の変容・成長を促すキャリア教育を推進し、生徒が将来を展望し主体的に学びを調整できる姿勢を育む。
- ・各教科における学力到達目標（指導目標）を設定し、模試などを活用することにより、定期的に学力・学習状況を教職員全体で共有するとともに、入学時の学力レベルを維持・向上させ、生徒の進路実現につなげる。
- ・学力の3要素を多面的・総合的に評価する大学入学選抜に向けた全校指導体制を、持続可能な形でさらなる充実を図り、生徒の進路実現につなげる。

5. 自ら学ぶ力を育成する

①進学型単位制の中で、自ら選択し、自ら学ぶ力を育成する

- ・将来のキャリアの展望や、現在の興味・関心に合わせ、教科・科目などを主体的に選択し、自ら進路を切り開いていくとする力を育成する。
- ・「個別最適な学び」の充実を図るため ICT の活用も含め、学びを自己調整し、主体的に学びに向かう姿勢を育む。
- ・英語の到達目標によるグループ分けを通して一人ひとりの目標に対応したきめ細かな英語指導を行い、確かな英語力、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、意見や考えを適切に伝えることのできる技術を育成する。
- ・1、2年次生において、放課後の時間を活用し、生徒の興味関心を引き出し、主体的な学習活動につながる支援を行う。

②現学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を推進する

- ・主体的・対話的で深い学びを充実させるとともに、学びの振り返りと見通しの機会を重視した授業改善を推進する。
- ・学習評価は授業改善や生徒の成長を後押しするものとして位置付け、多面的な評価を推進する。
- ・英語のグループ分けの到達目標の達成度を測るための指標を明確にし、卒業時までの評価の流れを確立させる。
- ・公開授業週間を効果的に実施するなど、教職員間で気軽に授業を見学できるような仕組みを設定する。

③DX ハイスクール（R6 年度より指定）を本校ならではの特色として軌道に乗せる取組を開始する

- ・3号館の英語村、図書館、コンピュータ教室を一体化させ、校舎全体をコミュニケーション能力、情報収集、分析能力、創造性を育むスペースとする「越境 DX プロジェクト」を推進する。
- ・DX ハイスクールの取組の中で越境マインドを持った理系の生徒を増やす。

6. 自ら律する力を育成する（生徒の自己指導能力の育成）

①安全・安心な風土を醸成する

- ・安全安心な学校生活の実現を目指すという指導目的を明確化し、生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう指導・援助を行う。また、その際家庭との連携を密にし、学校と家庭が一体となった生徒指導を行う。
- ・命の尊さ、互いの個性や多様な価値観を尊重し、共に助け合う態度を育み、人権が尊重される風土を醸成する。
- ・生徒の様子を確かに見取り、人格や人権をおとしめる言動、いじめや暴力行為、虐待等を見逃さないようにする

②集団の中で他者と協働して物事を成し遂げる力を育む

- ・他者とよりよく生きるための資質や態度を養うため、校内のルール作りなど、様々な場面で合意形成に取り組む活動を通じて、他者の価値観や優先事項などに触れ、他者理解と自己理解を深める機会を充実させる。
- ・互いの個性や多様性を認め合い、協働的な活動の中で集団や個人の自治的な能力を高める。
- ・部活動について、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであることを踏まえ、学校教育の一環として、キャリア教育の視点も含めながら、「日吉ヶ丘高校部活動運営方針」を遵守したうえで、年間計画や月間計画に基づいた効率的・効果的な指導を行う。

③個に応じた支援・指導を充実させる

- ・全教職員が日常的な対話や観察により、生徒一人一人の個性や特性・変化を丁寧に見取るとともに、チームとしての支援体制を確立し、時機を逸することなく個に応じた適切な支援や指導を組織的に行う。

7. チーム学校として組織力の向上をめざす

①働き方改革と働きがい改革を推進する

- ・教職員が心身ともに健康で充実感を持って教育活動にあたることを目的とし、全ての取組に対して、「働き方改革」と「働きがい改革」の視点を持ち、各教科や分掌、プロジェクトチーム等の取組も参考に業務の見直しや改善を図る。
- ・教職員同士が学び合い、支え合える風通しのよい職場環境を作ることで教職員一人一人のウェルビーイングを高める。

②教職員集団の力を最大限に生かす

- ・各分掌において業務を主任に任せきりにせずに、全構成員が当事者意識を持ち主任をサポートする視点を持つとともに、主任は一人で抱え込まず、構成員一人一人の力が生かされるような視点を持ち、業務の適切な分担を図る。
- ・「管理する組織」ではなく「学習する組織」をめざし、課題には、「当事者意識を持つ」「チームで当たる」視点で対応する。
- ・教科や分掌の業務の範疇を超えたアイデアや、枠にとらわれない自由な発想、新たな提案を楽しめる力、他者を巻き込んで新たな提案を実行していく力を持てるようにする。
- ・若手教職員の増加に伴い、当たり前と思われることも丁寧に説明したりするなど、若手育成・人材育成の視点を大切にすると同時に、教職員同士がお互いに積極的に声を掛け合いながら、「学び育つ組織」となることを目指す。
- ・令和8年度の分掌改編(学年付を増やす)を見据え、分掌間の連携を深め、効果的な連携の方策を探る。